

お待たせしました
六車茂一郎著
津奈木村郷土誌
一五〇〇円
一家に一冊！この好機に！
こゝ当分この本は出ないでし
よう。
今はいらなくても、子が孫
が必要とするときがきます。
早目に、公民館にて。

安全運転を呼びかけ 麦茶のサービス



私達婦人会・青年団は、交通安全協会のきも入りで、去る八月九日津奈木太郎千代ドライブイン前で、いねむり防止、過労運転防止のため麦茶の接待のお手伝をさせていただきました。

お盆の帰省客が、ボツボツ郷里へ帰られる時期とあって、家族連れの車が特に目立ちました。

思わぬ冷たい麦茶の接待に、のどももるおい、目もひよっか

り。そして婦人会・青年団の「気を付けてー」の一声に何回も何回も「有難うございませう」とお礼をのべ去って行かれました。

中には、麦茶の接待の厚意のあらうとは知らず、スピード違反でつかまったのかなあーと、思いながら、おそろおそろ車を止め、麦茶の接待におもわずホット胸をなで下ろされた、一コマもありました。

わずか三時間たらずの時間でしたが、多くのドライバーの人達に喜んで頂き、暑さも疲れもふきとんで、さわやかな気持ちで散会致しました。

郷土出身者紹介

津奈木への畏敬

大口市 野田 慎一

持って、私に密着し生活を支えてくれていることを書かねばなりません。

時たま親戚の者や知人に会えば、どうしても一時間や二時間は津奈木の話しに花が咲き、時間を忘れさせます。又何かの用事で帰郷することになれば、前の晩から気が落ち着かず、草々と準備ができあがってしまいます。

水俣に着けば車窓からみる人に津奈木の人を発見します。申すまでもなく津奈木に入れば三十年の空白はあっても、どこかの部落の人だと天体の見当がつきます。津奈木が誇る整然たる美林が四方に重なり、



野田慎二さん

でない私はどんなお便りを書けばよいかと戸惑いましたが、ふるさととは何事にもなっても、大きな魅力と底知れぬ威厳を

持つ、私に密着し生活を支えてくれていることを書かねばなりません。

時たま親戚の者や知人に会えば、どうしても一時間や二時間は津奈木の話しに花が咲き、時間を忘れさせます。又何かの用事で帰郷することになれば、前の晩から気が落ち着かず、草々と準備ができあがってしまいます。

水俣に着けば車窓からみる人に津奈木の人を発見します。申すまでもなく津奈木に入れば三十年の空白はあっても、どこかの部落の人だと天体の見当がつきます。津奈木が誇る整然たる美林が四方に重なり、

史談研修 ごと山に登る



とき 八月二十九日
場所 ごと山
目的 矢城の西南役戦跡、峠の観音、山法師塚をみる

参加 十二名

町の好意で自動車を貸してもらい、染竹の方から入る。先ず下の観音を拝む。詳しいことは堀さんが「地蔵さんめぐり」で書かれるだろうから略、ごと山。原始林は、いつも遠くから眺めるだけで、実際に足を踏み入れた始めての人多かつた。

肥後狂句

堀双岳選 (順不問)

ふりむいて、死んだ息子にそつくりじや
ふりむいて、ミニスカートに見とれる
じいっと、開票結果待つ気分
ふりむいて、うろろろすればうっちょよぞ
じいっと、辛棒しきつたのれん分け
じいっと、座っておれば銭になる

矢太郎
ふりむいて、後追う犬いっせらす
ふりむいて、裾が気になる向い風
じいっと、地蔵さんの如つ座つとる
拙者
ふりむいて、ビール冠は蹴飛ばす
ふりむいて、手振ってゆく新家庭
三澄
ふりむいて、あらっ初恋の人だった

全国農村生活改善発表大会

熊本県代表 野田 浦子

私は、三月五、六、七と三日間にわたり、東京都代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催された第一回農山、漁家生活改善実績発表大会に出席して頂きました。

生活改善を各県から持ち寄り、相互に実績を交換し合ったグループは、全国で一万六千グループ、三十万一千人の仲間が発展しているそうです。



上下間地区の生活改善発表をする 野田浦子さん

おりました。しかしながら戦後の経済成長にともない、米麦だけの農業では立ちゆかなくなり、煙草を作る人、構造改善事業でみかんを取りくん

上下間地区の生活改善発表をする 野田浦子さん

金言 名言

「名言は人生に於いて不思議な力をもつ。ある時は人を教える、ある時は人を励まし慰める。」

昨年の十二月号に、福沢翁の心訓を紹介した。あれに匹敵するものに徳川家康の遺訓がある。この遺訓も、前者と同様、条幅にして床間にかけてある旧家をよく見かける。

人の一生は重き荷を負うて遠き路を行くが如し。急ぐべ

津奈木公民館報

百年の間にはそれこそたくさんの方が集立ち、多くの先生が教鞭をとられたが、その先生の中には本町出身で、極めて異色の先生も少なくない。私はそうした方にスポットをあて、二、三紹介してみたいと思います。

大越 亨 春
明治十八年六月三日

筆者註、沢田先生は、明治十八年熊本県師範学校中等科卒業である。

徳永規矩先生の辞令書のなか

津奈木小学校
百年祭によせて

岡本 秋 徳

学校の足しにしている。明治九年に岩城学校、明治十年から十八年一月まで津奈木学校、十八年二月に中村四百三十五番地に校舎を新築移転し、また教員をそろえねばならぬ。規則はできても、その実現はなかなかむずかしい。学制の発せられた年の熊本県下の小学校は、十五校であつた。

キリスト教(プロテスタント)の信者であつた。当時としては異色の教師である。

「筆者註、明治二十六年十月津奈木校と改称になつてはじめて伊藤恒次郎先生が校長という職責で記録されている」

後年、徳永先生は他郷長崎の地に、沢田先生は台湾に、いまだ春秋に富む生涯を信仰に殉じられたのです。

娘がくれたシャツはピンクでした。折角くれたものだから、内心派手すぎると思いつつ着ていると、千葉から来ていた孫たちが「よく似合う」といいます。多小の自信を得てこのピンクのシャツを着て熊本の娘のところにいくと、これもよく似合うといひます。「半袖のワイシャツにネクタイをつけるとシックだと思つてると、娘は「じじくさい」とくさします。

抗も感じていません。私達は、色柄に對しても昔のまの尺度で計っているからだらうと思ひます。

私自身爺くさくならないようにと、派手なものをと努めていても、前のとおりの始末です。それで、若いものにまかせて買うことも一法です。

こうして求めたものは、天下一免の色柄だと安心して着用すべきでしょう。

そして軍服着た身も心もシャンとなったように、若い服装をして若返り、長生きをして社会のためにつくしまし

明治十八年五月二十日
八代津北郡役所
沢田義武
任熊本県公立津南小学校四等訓導
但月給八円
熊本県大書記官従六位

かに津北郡第三番学区の文字があるので、余談になるが、学制発布のことにふれてみる。明治五年八月、法令として「学制」が公布になり、いまの熊本県(当時は白川県と八代県)で言えば、一四六七

この津南小学校時代の首席教員として徳永規矩先生と沢田義武先生が名を連ねておられる。首席教員とは、いまいう管理職であらう。とも

卒二教示をお願いします)

私達は派手すぎと思つていても、若いものは何の抵

抗も感じていません。私達は、色柄に對しても昔のまの尺度で計っているからだらうと思ひます。

抗も感じていません。私達は、色柄に對しても昔のまの尺度で計っているからだらうと思ひます。



和歌

お待ち、立ち話、五句以内
十月末まで、公民館宛

次題 双岳